

# 風車

紀州の歴史と文化の風

2009春号

46

財団法人 和歌山県文化財センター

## 特集

京奈和自動車道関連遺跡発掘調査

「西飯降Ⅲ遺跡の調査」

「重行遺跡の調査」

## 連載

文化財建造物課 短信

きのくに歴史小話

「建築彫刻の話」

「発掘屋余話」

考古学の散歩道

「紀ノ川流域の古代寺院」



## 京奈和自動車道関連遺跡発掘調査 西飯降 遺跡の調査

伊都郡かつらぎ町内において、平成十八年度から京奈和自動車道建設に伴う遺跡の発掘調査を行いました。西飯降遺跡では、昨年度は六六〇〇m<sup>2</sup>、今年度は六八〇〇m<sup>2</sup>（合計一三四〇〇m<sup>2</sup>）の発掘調査をおこなっています。この二年にわたる調査で、弥生時代、古墳時代、古代の生活の痕跡が密集した状態で発見され、調査地が当時の集落の中心部分に当たっていることがわかりました。

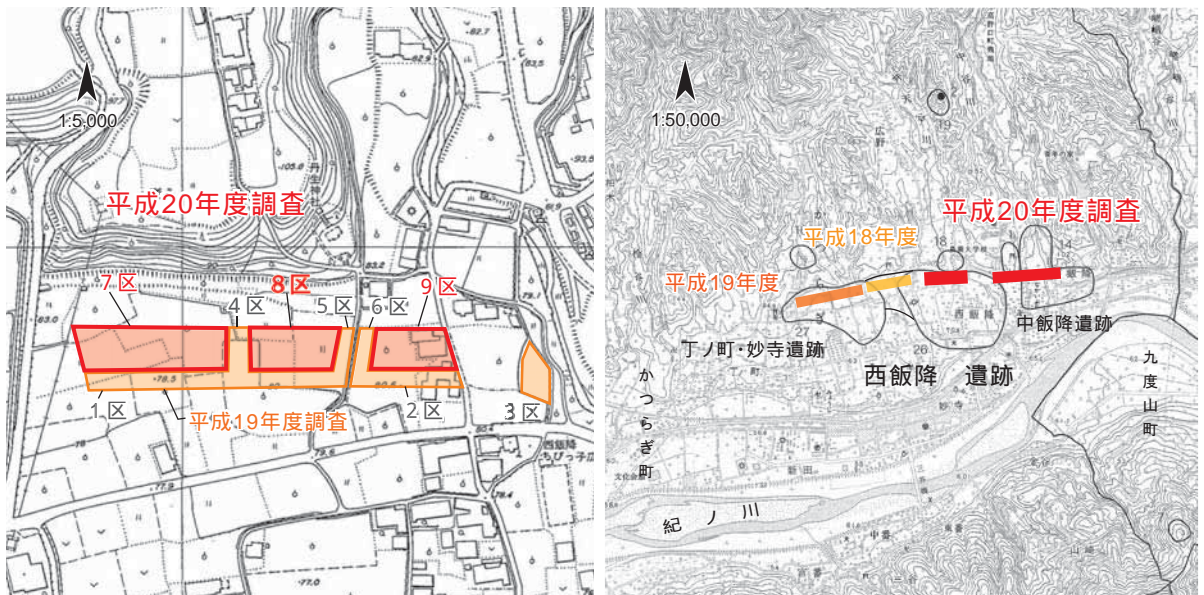
弥生時代中期（約二〇〇〇年前）には、集落域の東端と西端に溝があり、溝と溝の間隔は約一六〇mあります。集落域には円形の竪穴住居たてあなじゅうきょが二〇棟以上あります。竪穴住居は大きいものでは直径一〇mほどあり、中央には炉が設けられています。集落の端の溝には大量の土器が投げ捨てられており、ほかに当時の石製の稲刈り具や武器も出土しています。

古墳時代前期（約一七〇〇年前）の竪穴住居は二〇棟以上あり、この時期の集落は南東方向に広がるようです。古墳時代中期～後期（約一六〇〇～一五〇〇年前）の竪穴住居は一〇〇棟余りあります。竪穴住居は一辺四～五mの方形で、北側か東側にカマドを設けるものが多いです。

奈良時代（約一三〇〇年前）は、数多くの掘立柱建物があり、硯すずりが出土したことから役所的な性格をもつ可能性もあります。

弥生時代から古墳時代にかけて、西飯降遺跡は地域の中心的な集落であったことがわかり、この場所が立地・居住性などの点から大きな意味があることがうかがえます。紀ノ川上流域の大規模な集落の様子が明らかになったことは、和歌山の歴史を考えるうえで重要な発見といえるでしょう。

（原田昌則・富永里菜）



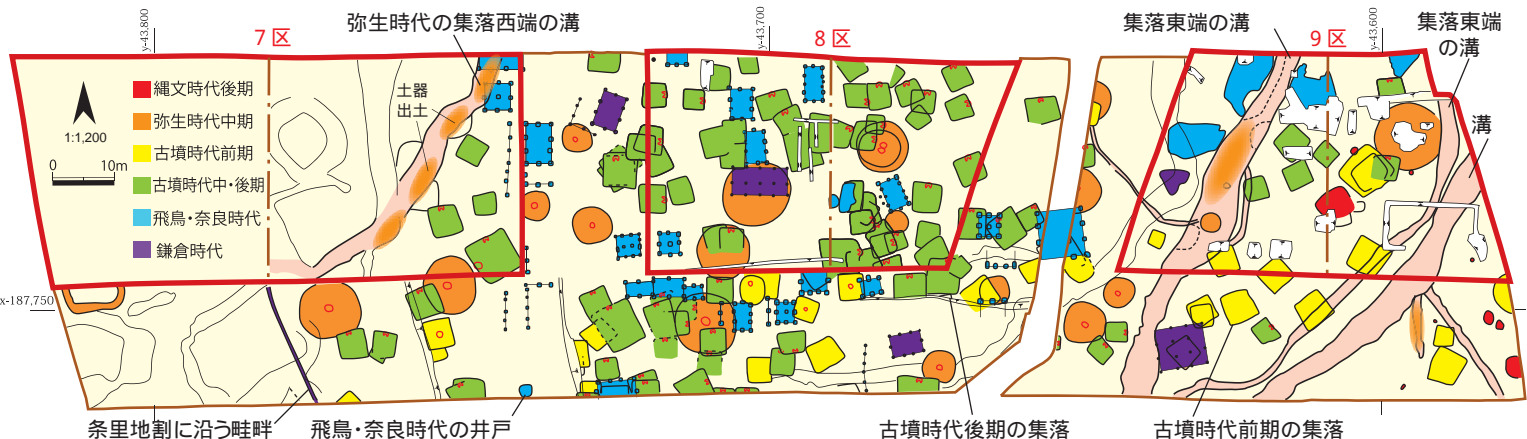
遺跡の位置と調査区配置図





弥生・古墳時代の  
大集落の発見

- 1: 8区東半全景 南西から
- 2: 9区西半全景 南から
- 3: 9区東半全景 南東から
- 4: 8区弥生時代の竪穴住居
- 5: 8区古墳時代の須恵器
- 6: 7区溝に投げ捨てられた弥生土器
- 7: 9区縄文時代の竪穴住居の土器



## 京奈和自動車道関連遺跡発掘調査 重行遺跡の調査

重行遺跡は、分布調査・試掘調査によつて新たに発見された遺跡です。

調査地は、紀の川市重行で、広域農道橋本・岩出線と県道泉佐野・打田線の交差点南側です。現在は北から南へと三段の雑壇状の水田となっています。

和泉山脈から南流する佐川による谷の西側の低位段丘面に遺跡は立地します。重行遺跡から西北西の山麓では磨製石斧や、石鏃、石錐などの縄文時代の石器が見つかった遺跡が存在します。

中世には、城館跡が知られています。発掘調査は平成二〇年十一月から始まり、約四〇〇〇m<sup>2</sup>を調査しました。

今回の調査で見つかった遺構は県道東側のA区では、殆どが鎌倉・室町時代のもので、土坑、溝、柱穴などがあります。県道西側のB・C・D区でも、土坑、溝、掘立柱建物、石垣などが見つかりました。これらは石垣で区画された中世の屋敷地と考えられます。

C区では弥生時代中期(二二〇〇年前)の竪穴住居を一棟検出しました。大きさは直径約八・四mで、中央に炉、壁の内側で十三本の柱跡を見つけました。壁溝が二重に見つかったことから、竪穴住居は建替えられたものと考えられます。

遺物で注目されるものとしては、中世の金属製品の破片が一点出土しました。

一つは青銅製の鏡で、日本で作られた「和鏡」と呼ばれるものです。和鏡は破片で、小型のものです。

他の一つは飾り金具の一種と考えられ、青銅に金メッキを施したもので、両面には五三の桐紋が陰刻されています。桐紋は当時、高貴な「紋」であったと考えられ、貴重な飾り金具であったと思われます。

元々この低位段丘面には弥生時代中期から人々が定住し、中世に整地などで大きく改変されたため、古い遺構の殆どが削平されたものと思われます。

(佐伯和也・尾藤徳行)



重行遺跡出土の飾り金具



調査位置図



# 文化財建造物課 短信



## 金剛三昧院客殿及び台所

金剛三昧院の修理工事では現在、建物軸部の建て起こし、柱足元の根継ぎ、という作業を進めています。

今回の工事で床組を解体し、床下の清掃を行ったところ、地表面に現在の建物が建てられる以前の建物（以下「前身建物」と呼称）が存在したことを示す礎石（柱下に据えられる石）の抜き取り穴を発見しました（写真1）。また、前号でも触れましたが、土室の間と呼ぶ部屋には「土室」という炉が存在したことも確認されました。

そこで、建て起こし作業に先駆けて、建物下の地盤がどの様に築成されたのか、現状建物と「土室」の関係（変遷など）について把握する為に、発掘調査を行うことにしました。

地盤面の観察で得た知見を基に、図1の通り、東西・南北方向のトレンチ（試掘溝、幅三〇cm）を設定し、地盤の築成状況や礎石の据付状況を調査した結果、四時期の地盤面が確認できました。山裾

を削平・盛土し、今の大広間部分に存在した前身建物（第1期）、その建物の北側を拡張した平面の第2期、現状と同規模平面の前身建物（第3期）と続きます。「土室」は現状建物と同時期に造られ、二度の改変を受けており（写真2）、そのいずれもが天井の痕跡とも対応します。この他、持仏の間では、現状建物の地鎮具（賢瓶と土師皿）が検出されました（写真3）。（下津健太郎）



写真1 大広間床下の前身建物遺構



写真2 「土室」の礎石群と変遷

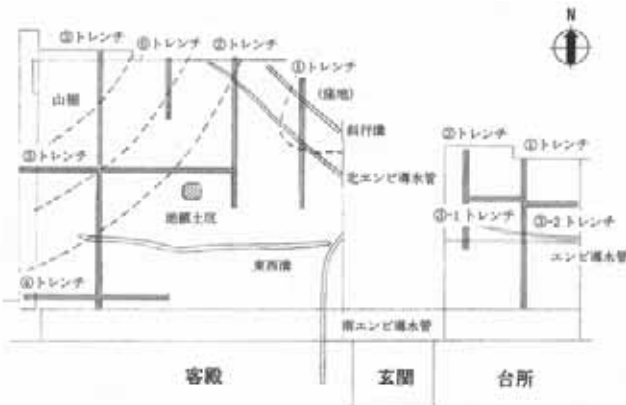


図1 発掘調査箇所



写真3 地鎮具「賢瓶」

# 紀ノ川流域の古代寺院

富加見 泰彦

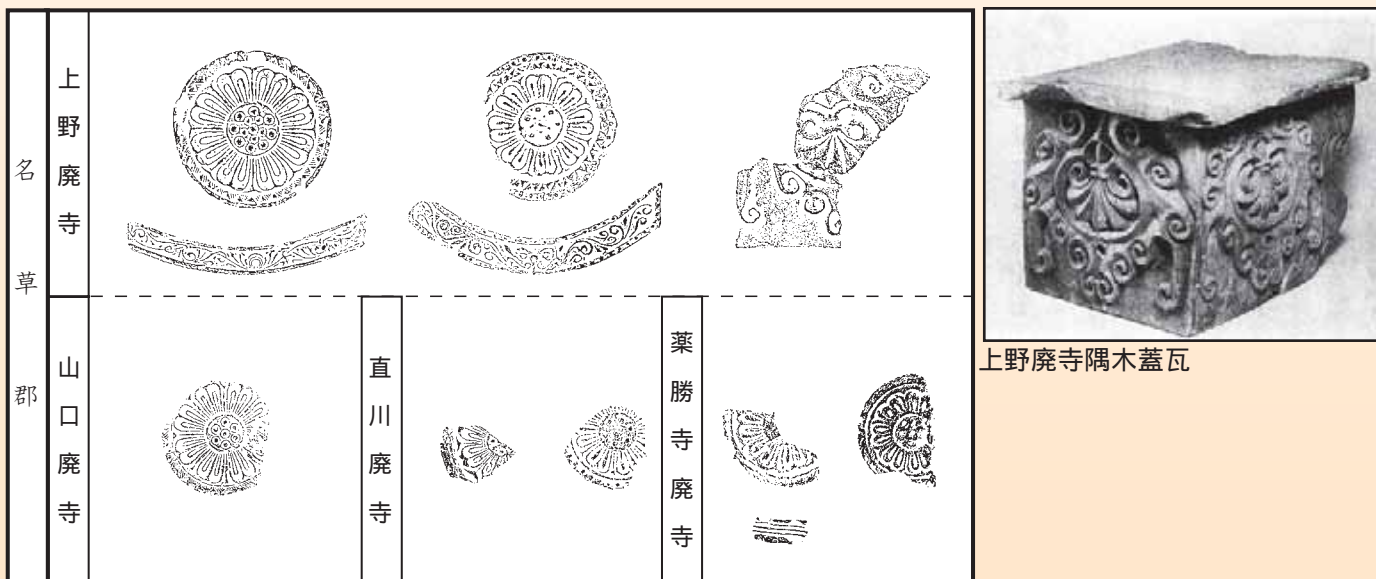
今回は名草郡の寺院について触れることにします。名草郡には法隆寺西院系の瓦を持つ山口廃寺、上野廃寺、直川廃寺と川原寺系の瓦を持つ薬勝寺廃寺などの寺院が存在しています。このほか太田・黒田遺跡からも法隆寺西院系軒瓦が出土しています。なぜ、この遺跡から出土するのはいまのところ謎です。

名草郡で中心的な寺院は、上野廃寺で東西両塔を備えた紀伊においては唯一のものです。わが国ではじめて塔を2基備えたのが本薬師寺であり、この双塔式伽藍配置を薬師寺式伽藍配置と呼称していることから、紀伊の薬師寺と呼ばれています。

上野廃寺の軒平瓦は均整忍冬唐草文様の法隆寺西院系の瓦です。法隆寺西院は、天智天皇九年（670）に焼失した法隆寺を再建したものです。上野廃寺の瓦もそうですがもう一つ注目されるのが「隅木蓋瓦」の存在です。「隅木蓋瓦」というのは、屋根の四隅を支える隅木の先端を保護する道具瓦のことです。この隅木蓋瓦は山口廃寺・直川廃寺でも見つかります。デザインが法隆寺金堂の雲型斗拱とそっくりであるといわれています。名草郡の各寺院の造営と再建法隆寺の造寺活動との密接な関連を伺わせる事柄といえます。

ついで名草郡では唯一の川原寺系の軒瓦を持つ薬勝寺廃寺の話をしてします。この廃寺が有名なのは、仏教説話『日本靈異記』中巻第三十二話に収められた「聖武天皇の世、名草郡三上村では、「知識」を結び、薬王寺（勢多寺）のために財物を持ち寄り、それを岡田村主姑女に預けて酒を造り、それによって得た利益を「薬分」の費用にあてていた」という記述からです。

三上村の人々が財物を岡田村主姑女と呼ばれる酒造業者に貸し付け、利息とともに元本を回収する「高利貸」を行っていたのです。このような高利貸は「出拳」と呼ばれ、寺院の多くが行っていたようです。この記述によって当時の寺院の活動の一端を知ることができます。いつの世にも高利貸はいたようです。



上野廃寺隅木蓋瓦



## 建 築彫刻の話

④

今回は和歌山市加太にある加太春日神社の脇障子彫刻「黄石公と張良」です。馬上の黄石公が橋を渡ったときに靴を川に落とします。それを張良が川から拾い上げたときの光景です。これは古代中国の物語で、黄石公は兵法の大家。張良は志を持った若き政治家。この時の出会いがきっかけで、張良は兵法の奥義を授かり、劉邦の軍師として漢王朝の成立に活躍した、という出世物語の一場面です。

加太春日神社は慶長元年（一五九六）当時紀州を支配した豊臣秀長の家臣桑山重晴によって建てられました。戦乱続く下剋上の世に、張良の様な軍略に長けた参謀は最も必要とされていたに違いありません。秀長の腹心で和歌山城代に任じられた重晴は、この脇障子彫刻の張良に自分自身の生き方を写していたのではないのでしょうか。

（鳴海祥博）



加太春日神社 脇障子

## 発 掘屋余話

④

弥生時代のはじまり

弥生。春、三月の異称として知られるこの言葉が冠されたせいか、弥生時代は、前時代の縄文時代にくらべると、なにか華やき、明るさを感じさせてくれる。

その弥生時代が、とくにその始まりの年代が、今大きく揺れ動いている。弥生時代の開始は、概ね紀元前三〇〇年頃というのが、これまでの常識だろう。

そういう中で、平成十四年、先端科学の分野から衝撃的な年代観が提示された。板付式と呼ばれる弥生時代前期の土器に付着した炭化物を使い、AMSと呼ばれる炭素年代測定法を用いて導き出した年代だ。その結果は紀元前八〇〇年。従来の見解を大きく五〇〇年近くもさかのぼる。

考古学側の弥生時代の暦年代は、土器型式の変遷とこれに伴う紀年銘資料などを基として組み立てられてきた。長い間の研究成果である。それが……。ただ、今のところ確定したものはないし、むしろ考古学の方からは反論の方が多い。

もっともこれと同じようなことが、ちょうど五〇年前、縄文時代の開始年代を巡って起こっている。縄文時代の始まりは、三千年前と考えられていた中で、夏島貝塚から出た炭化物をミシガン大学が分析した結果、九千年前と出た。その結果に対し、神武東征のごとき世迷言と反論したのは考古学者だった……。現在、縄文時代の開始は少なくとも一万五千年は前とされている。この動きが春の嵐となるのか否か。たゆたう陽光の中で、いま弥生が揺らいでいる。

（村田 弘）



# 催し物案内

和歌山県内の文化財関係イベント情報

## 「京奈和自動車道関連遺跡調査報告会」

日時：平成21年3月21日(土)午後1時30分～午後4時  
場所：かつらぎ総合文化会館AVホール  
主催：(財)和歌山県文化財センター <http://www.wabunse.or.jp/>  
後援：かつらぎ町教育委員会

### 遺物展示

期間：平成21年3月3日(火)～3月21日(土)  
場所：かつらぎ総合文化会館展示ホール

## 県立紀伊風土記の丘

### 冬期企画展「紀ノ川の考古学・民俗学」

第一部「鹿の描かれた時代～紀ノ川流域の弥生時代～」  
第二部「牛が家にいた頃 - 和歌山の農具 - 」

期間：平成21年1月24日(土)～3月15日(日)  
主催：県立紀伊風土記の丘 <http://www.kiifudoki.wakayama-c.ed.jp/>

## 和歌山県立博物館

### 企画展「絵図を読む2」

期間：平成21年3月14日(土)～4月19日(日)  
主催：和歌山県立博物館 <http://www.hakubutu.wakayama-c.ed.jp/>

8	催し物案内
7	「発掘屋余話」
7	「建築彫刻の話」
7	きのくに歴史小話
6	「紀ノ川流域の古代寺院」
5	連載コラム 考古学の散歩道
5	文化財建造物課 短信
5	「重行遺跡の調査」
2	「西飯降 遺跡の調査」
1	特集 京奈和自動車道関連遺跡発掘調査
1	表紙 西飯降 遺跡

### 現場事務所一覧

旧中筋家住宅保存修理事務所  
和歌山市禰宜 148  
☎：073(477)5969

金剛三昧院保存修理事務所  
高野町高野山 425  
☎：0736(56)5578

京奈和自動車道遺跡関連発掘調査  
中飯降遺跡発掘調査事務所  
☎：0736(22)2534

県指定史跡水軒堤防発掘調査事務所  
☎：090(3276)8475

北山廃寺・北山三嶋遺跡発掘調査事務所  
☎：0736(64)2299

### 埋蔵文化財課分室

和歌山市新在家 61 番地の 4  
☎：073(472)3710

風車 46 (2009春号)

平成21年3月15日発行

(財)和歌山県文化財センター

〒640-8404

和歌山市湊571-1

TEL:073(433)3843

FAX:073(425)4595

E-mail: maizou-1@wabunse.or.jp

URL <http://www.wabunse.or.jp>